

第2学年「国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 平仮名、漢字が定着してきている児童が多い。
 - 文章中から、必要な言葉を読み取って、自分の考えを表せる児童が多い。
- 課題**
- ▼ 日常的に文章中で、既習の漢字やカタカナを適切に用いたり、「はをへ」や長音・拗音・促音を正しく用いたりすることが苦手な児童が多い。
 - ▼ 語彙が少なく、文章表現が乏しい。
 - ▼ 話を聞く時に、適切に大事な部分をとらえて学びにいかすことが難しい。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 漢字やカタカナなどの既習事項を適切に活用し、文章で表すことができる。
- ◇ 語彙を増やし、文章表現力を豊かにする。
- ◇ 大事なことを捉えながら話を聞くことができる。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- これまで学習したことを活用して、適切な思考ツールを選択し、主体的に学習に取り組めるようにする。

言語活動の工夫

- 図書館利活用の時間を十分に設定する。
- 自分の考えや友達の考えを交流する時間を設けることを通して、自分の考えを広げたり、深めたりする学習活動を設定する。

ICT活用の工夫

- 考えを共有する際に ICT を効果的に活用することで、児童の考えを広げる。

課題解決力育成の工夫

- 文学的文章を題材とした学習では、課題解決的な読みとなるような「問い」を設定して学習を深めるようにする。

達成目標

- 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養う。
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。